

当事者による授業が介護専門職を目指す学生に与える影響に関しての一考察  
－授業評価からみえてくる学生の受け止め方について－

佐藤涼<sup>1)</sup> 石田 賢哉<sup>2)</sup>

1) 特定非営利活動法人出版印刷 NPO 法人 C-Flower 2) 青森県立保健大学

Key Words : ①学習効果②直面化③レディネス

## I. はじめに

社会福祉分野における多くの教育機関や研修では、当事者による語りを授業・研修プログラム授業に組み入れている<sup>1)</sup>。当事者による講義は非常に重要で、学生への影響も大きい。しかし、学習効果をはじめとして当事者による授業の影響の測定はさほどおこなわれてはいないのが現状である。

## II. 目的

介護福祉士を目指す学生に対して、福祉サービスを利用している当事者が授業の講師となり、当事者のメッセージがどのような影響を与えているのかを明らかにする。学生本人のやる気、介護福祉に対する問題意識、自分自身の将来へのイメージの3点に焦点を絞る。

## III. 研究方法

### 1. 期間

平成20年11月

### 2. 対象

青森県内にある介護系専門学校1年生

### 3. 調査方法

集合調査

講義終了後、講義を受けて学習したことや感想を記入してもらう

アンケート用紙は無記名とし、記入された内容については成績評価に一切関係しないことを説明及び明記し、回答をもって同意とした。

## IV. 分析の方法と結果

### 1. 授業の概要

青森県内にある福祉系専門学校にて実施。学校より正式依頼を受け、「社会福祉概論」の授業1コマをゲストスピーカーとして実施。授業内容は「当事者が求める介護職」。事前打ち合わせを数回おこなう。講師の授業目的を「将来、福祉の職に就くであろう学生に、身体障害者である当事者(佐藤)が介護を受けての現状と、福祉施設で働く友人からの意見を伝え、介護者と要介護者の意識を知ってもらう。その上で学生たちに理想の介護を考える契機を提供すること」とした。

### 2. 授業内容

- ・学生たちに福祉の専門学校へ通っている意味は、福祉の仕事に就くべくではないのかという「当事者からのメッセージ」としてぶつける。
- ・中途障害になった佐藤の後輩の話をし、障害者になる確率がゼロではないということを伝える。
- ・介護者が「気分次第での介護」ではプロとして失格であることを佐藤の実体験を元に伝える。

- ・佐藤の友人で20代の福祉施設職員を紹介。見た目や年齢が学生に親近感が沸く人物をモデルに、本人の現状を写真やメッセージなどを使って紹介。
- ・「処遇支援」と「個別支援」を簡単に説明。佐藤が幼いころに受けた介護と、現在受けている介護の感想を述べる。
- ・学生たちが福祉の職に就くからこそ「介護」があることを伝える。
- ・学生の前で言葉で伝えることが出来る佐藤だけが障害者ではないことを伝える。
- ・佐藤が突然のように介護を要求(上着の脱衣介助)をしたときの学生たちの行動を図る。

## 3. アンケートの実施

授業終了後に、共同研究者がアンケート調査を実施。項目は①授業満足とその理由②今後に役立つかどうかとその理由③印象に残ったことの3点である。併せて、④将来福祉分野に就職を予定しているか⑤現在学校で受けている授業について⑥学校で学ぶことの面白み⑦本人のやる気の4点を質問項目として設定している。

## 4. 結果

学生34名の協力を得ることができた。97%が授業に満足と回答。今後に役立つ内容であったかでは100%が役立つと回答。卒後の予定では65%が福祉分野を予定。ほかの授業について今後役立つと思うかについては65%が役立つと思うと回答。学校で学ぶことの面白みについては62%が面白みを感じていると回答。自由記述では授業内容で、「講師が上着を脱がしてくれと頼んだとき、一人しか着脱の手助けをしなかった場面」、「講師の強いメッセージ」の2点を印象に残ったこととして76%の学生が挙げていた。

## V. 考察

福祉に漠然とした興味、関心をもっている学生が多い中、社会福祉を学ぶことについて戸惑いや興味を持ちきれていない学生も少なからずいる。また、1年次は基本的に座学のみで実習がないため、現場や利用者に対してのイメージを持ちにくいことも考えられる。そのような中で、実際に福祉を活用している当事者の声を聴くことで、自分たちの今の姿を見直し、これからどうしていけばよいのか考える契機となったと思われる。

自由記述からは「楽しかった」といったコメントから、学生自身の反省や講師のメッセージを真剣に受け止めていたコメントまであり、介護専門職に向けて意識に差があることが本調査から明らかになった。

当事者による授業は、これから介護専門職を目指す学生に対して影響力があり、多くの学生にとって「今の自

分」そして「これからの自分自身」を考える契機となったと思われる。

#### VI：文献

- 1) 久保紘章『セルフヘルプ・グループ―当事者のまなざし コレクション』相川書房.